

歌麿通信3 「雪」

「雪(吉原仮宅 深川の雪)」は、栃木市の豪商・善野家(屋号・釜伊)の依頼で歌麿が描いたといわれる肉筆大作「雪月花」(三幅対)の一つです。「雪月花」は一八七九(明治十二)年、旭町の定願寺で展示され、目録も残っています。また、市内で撮影された写真も発見されています。しかし、三点は一八八七(明治二十)年までにパリに流出。現在、「花」と「月」は米国の美術館にあり、「雪」は行方不明です。ただ、「雪」は一度日本に戻り、一九四八年に東京の百貨店に三日間だけ展示されました。横三四六センチ、縦一五八センチ。展示するのも三人がかりだったそうです。このとき「雪」を見た浮世絵研究家は、その大きさと歌麿の芸術の力に圧倒され、「た、た、た、た、た、た、た、た」と絶賛しています。

善野家では、「せつげつか」ではなく「ゆきつきはな」と呼び、「月」「花」「雪」の順で描かれたと言い伝えられています。絵の中の女性の髪型からも、「雪」がほかの二作品よりも後に描かれたことが裏付けられています。

パリの画廊で「雪」を見た作家ゴンクールは「投獄の危険を感じた歌麿は、遠い地方の友人宅に身を潜めた。この巨大な掛け軸は、そこで受けたもてなしの返礼」だと書いています。「地方の友人宅」が「栃木の善野家」で、「巨大な掛け軸」が「雪」であることは、間違いないでしょう。

問合せ 本 文化課 ☎(21)2426

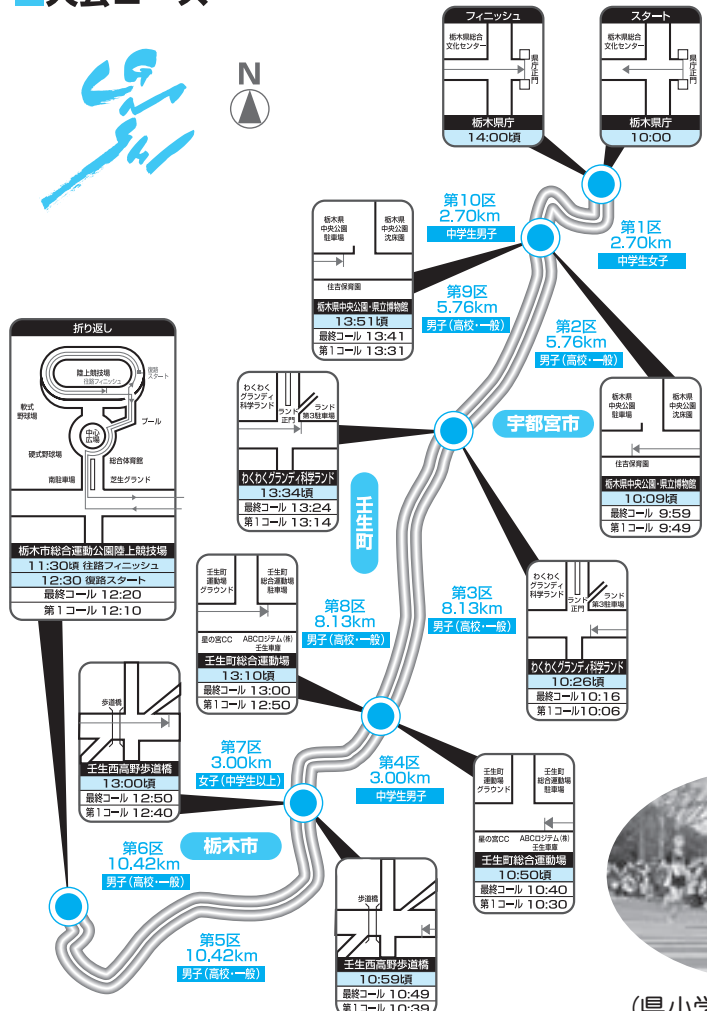


→市内で発見された「雪」の写真

第52回 栃木県郡市町対抗駅伝競走大会

1月30日(日) 雨天決行

大会コース



- ・開会式 9時30分(県庁)
 - ・往路スタート 10時(県庁前)
 - ・復路スタート 12時30分(市陸上競技場)
 - ・閉会式 14時30分(県庁)
- 問合せ スポーツ振興課 ☎25-0930

県内有数の規模と歴史を誇る郡市町対抗駅伝競走大会が、県庁(宇都宮市)と栃木市総合運動公園陸上競技場を往復するコースで開催されます。県内各郡・市・町の名誉をかけ、中学生と一般・男女ランナーが10区間60kmの熱い戦いを繰り広げます。

また、同日、市総合運動公園内で第3回栃木県小学生駅伝競走大会(10時スタート)が開催されます。選手への声援をよろしくお願ひします。

※大会当日は、ランナーや大会関係車両の通行により一時的に道路が混雑することが予想されますので、ご注意、ご協力をお願いします。



(県小学生駅伝競走大会)